

GFPグローバル産地計画 長芋の海外輸出拡大への取組



2020年2月14日

基本情報

■事業主体

オホーツク網走農業協同組合



■事業主体者の概要

事業実施主体の名称	オホーツク網走農業協同組合	設 立 年 月 日	平成3年9月1日
	(〒093-0004)	資 本 金 (出 資 金)	2,016,973千円
主たる事務所の所在地	北海道網走市南4条東2丁目10番地	役員	代表理事組合長 岡本 一男 農業者
			専 務 理 事 乾 雅文 農業者
代 表 者	代表理事組合長 岡本 一男		常 務 理 事 佐々木 豊 学識経験者
担 当 者	販売部 販売企画課 大澤 正光		代 表 監 事 小崎 正幸 農業者
連 絡 先	電話番号		常 勤 監 事 金澤 匡晃 学識経験者
	FAX番号		理 事 12名 農業者
	E-mail		常時雇用する従業員数 156人

関連加工施設 長いも選果場

主たる施設の所在地	(〒099-3202) 網走郡大空町東藻琴西倉357番地	建 設 年 月 日	平成14年10月
		建 物 面 積	2519.811㎡
		収 容 量	1,670トン
施設委託事業者	(〒099-1587) 北見市豊地93番地1 北見通運株式会社	選 果 品 目	長いも、大根
		1 日 / 選 果 量	12トン
		1 日 / 選 果 時 間	7時間
施設連絡先	電話番号	年 間 稼 働 日 数	175日
	FAX番号	選 果 雇 用 人 員	17名

■対象品目

長芋

■ターゲット国

アメリカ・台湾・シンガポール・タイ

■事業年度

平成31年4月～平成34年3月



申請者の概要

網走市内の3農協（南網走農業協同組合、網走中央農業協同組合、西網走農業協同組合）は、農業に対する外圧、農畜産物価格低迷、農協正組合員戸数の減少など、自由化の進展に伴う厳しい状況に対応するため、大局的見地に立って、農業の振興と地域経済の安定の為に平成元年11月以来、合併に向けて協議検討を重ね、平成3年9月1日オホーツク網走農業協同組合を設立するに至りました。その後、網走市内の合併に向け、平成8年9月に2農協（オホーツク網走農業協同組合、網走市農業協同組合）の合併検討委員会が発足、両農協臨時総会での満場一致による賛成の決議を受け平成11年8月1日名実ともに網走市内一円の農協が誕生しました。また、平成19年4月のオホーツク網走農業協同組合、東藻琴農業協同組合の通常総会において2JAによる合併推進委員会を立ち上げ、合併実現に向かう事が承認されこの後、推進委員会及び両JAの役員会さらには地区別懇談会等において、組合員の意向を伺い、検討を重ね、平成19年10月5日に両JAの臨時総会に於いて満場一致の決議がされ、検討協議の場を合併委員会に移管し農業の担い手が将来の夢と希望を持てる地域農業づくりと生産コストに寄与できるJAを目指して具体的な内容の協議を行い平成20年2月1日新生オホーツク網走農業協同組合が誕生致しました。現在の組合の代表理事組合長は岡本 一男です。

輸出を目指す背景と目的

【背景】

海外市場に販路を求め平成25年よりアメリカを中心に輸出をしている。

平成25年には320 t、平成26年には500 tに達したが、近年は台風等の天候不順及び面積の減少等があり100 t前後での推移となっている。

平成28年からは、種いもを東藻琴系統に統一し販売強化を図っている。

近年は天候の影響を受け収量が不安定な傾向にあり、ほ場間における格差も見られる事から、今後、安定収量確保の為に栽培技術の検討が求められている。

また、近年、1戸当たりの面積増に伴い、手間のかかる青果物の面積が減少しており、長芋についても同様の状態となっている事から、今後、維持・拡大のための対策の検討が必要となっている。



収量の増加と品質の安定化



海外への販路拡大